

「新青丸」申込書の作成にあたって

この申込書は、研究船共同利用運営委員会における選考ならびに研究計画案の作成に当たって、重要な資料となるものですから、正確に記入してください。

1. 研究課題：一つの研究課題と考えられるものを複数に分けて申請することは避けて下さい。所属にかかわらず、同一の研究グループによる同一の研究内容の申し込みは、一つの申込書にまとめて提出してください。また、白鳳丸もしくは他船の公募との重複した申請は出来ません。
2. 研究代表者・分担者：すべての研究分担者（大学院学生等を含む、ただし実質的に研究を分担する者に限る）の氏名・研究分担・所属機関・職名（学年）を記入してください。来年度入学予定の大学院学生に関しては、氏名欄に氏名の代わりに“入学予定”と記入し、予定の研究分担、所属機関、学年を記入してください。
「旅費負担」欄（この欄の記載内容は評価には関係しません）は、申し込み者の研究予算で負担可能の場合は“有”、そうでない場合は“無”としてください。なお、共同利用予算に制約があるため、“無”とされた場合でも一部の負担をご相談することがあります。「乗船・非乗船」欄は、研究分担者のうち乗船予定の方に“○”としてください。
3. 乗船期間及び海域：「必要観測日数」は観測に要する実日数（寄港地から観測海域までの回航に要する日数を除く）を記入してください。観測内容等により、他の複数の研究課題と合わせて一つの航海となるよう計画されることがありますのでご承知おきください。震災関連研究への直接的な貢献が期待される場合は、「4. 震災関連研究航海」を○で囲んで下さい。
4. 研究目的・内容：研究の背景・研究目的・内容・重要性等を、分かりやすく枠内で記載してください。研究業績欄に記載されている成果を適宜引用してください。
5. 研究計画：研究目的を達成するためにどのような観測を実施するのか、測点、測線、観測日数の算出根拠等を分かりやすく記載してください。複数年度にわたる計画の場合の全体における本航海の位置づけ、他の計画との関連、他の研究機関

との連携等、審査の参考となるものがあれば枠内で書いて下さい。今までに新青丸での使用経験のない観測機器での調査、浅海域での調査など、実施可能性について技術的な検討が必要な課題については、事前にお問い合わせいただいた上で応募してください。

6. 震災との関連：この研究が東日本大震災と関連する、または将来関連する可能性がある場合には、具体的に記載してください。ただし、この欄の記載の有無によって、審査上不利になることはありません。
7. 観測希望時期等：観測希望時期、寄港地等、航海計画作成にあたり要望事項があれば、理由とともに記載してください。観測希望時期を限定される場合は、線表作成の都合により希望時期に航海を組み込めなかった場合どのようにされるのか記載ください(例:申請を取り下げる)。乗船予定の研究者が少人数の申請の方は、他の申請と乗り合いが可能か記載してください。観測時に技術支援の必要がある場合は、合わせて記載してください。技術支援の詳細について、ご不明な点がありましたらお問合せ下さい。
8. 研究業績：本研究計画に関連する業績について、枠内で記載してください。研究代表者名には二重下線、研究分担者名には下線を引いてください。また、白鳳丸・淡青丸・新青丸を使用したものについては、それぞれ (H06) (T10) (S16) のように航海年度とともに示してください。
9. 他航海への応募・最近の航海採択・不採択状況：研究代表者および研究分担者の方が、新青丸・白鳳丸もしくは他船の公募に、研究代表者もしくは研究分担者として応募されている場合は、状況を記載してください。本応募との関連についても記載してください。また、研究代表者の方の最近(過去3~5年程度)の新青丸・白鳳丸もしくは他船の航海の採択・不採択の状況も記載してください。
10. 別添の要目表にある大型可搬機器 (2. (6)可搬型観測機器および3. (2)観測ウィンチ(可搬型) が該当します) の搭載には多額の経費がかかることから、採択後の航海計画作成にあたりご相談させていただく場合があります。
11. 乗船時に外国の大学・研究機関等に所属する乗船者は、共同利用手続き上、日本

の大学・研究機関等に受け入れていただかないと、共同利用経費からの旅費・食費等の支給ができません。

12. 日本の領海（12海里）外に機器を設置・放流する場合、輸出貿易管理令で規定する機器に該当するかどうか確認して下さい。採択された場合、該当機器は研究者が所属する機関を通じて許可申請を行ってください。
13. 沿岸域の観測にあたっては、当該海域の漁業関係者と調整を行っていただくことがあります。